第1号議案 令和2年度事業報告の件

(令和2年4月1日~令和3年3月31日)

【令和2年度を振り返って】

コロナ禍での1年でした

令和2年度は、前年度末からの新型コロナウイルス感染拡大のため、年度初めより多くのイベントや予定が 中止になったり、開催形態の変更を余儀なくされました。

前年度の「お父さんお帰りなさいパーティー」の中止に続き、年度初めから国の緊急事態宣言が発出されたために、市民活動支援センターは約2か月あまり閉館となりました。その状況のもとに昨年度は通常総会も協議会の創立以来初めての書面審議となりました。

しかしそのような状況においても、地域活動や市民活動によって一人ひとりが充実感を感じ、それによって 八王子地域が持続可能な活き生きとしたまちに発展することが、私たちの活動の目標であることに変わりはあ りません。「このような状況下でも」、「このような状況下だからこそ」、活動する市民のみなさん、団体のみなさん を元気づけ、支援できる活動をしていこうと、新しい時代の市民活動のカタチを模索した一年でした。

オンラインをとりいれた新しいカタチへのチャレンジ

協議会内部の会議はもちろん、外部との打合せにも積極的にZOOMなどのオンラインの手法を取り入れるとともに、イベント等もオンラインで行うことにチャレンジしました。

- ①支援センター事業ではありますが、協議会がプロジェクトスタッフとして全面的に協力して開催した「はちおうじNPOフェスティバル」はYouTube生配信とZOOMを組み合わせ、途中生中継も入れました。
- ②「お父さんお帰りなさいパーティー」は団体動画を紹介しながら、ブレイクアウトルームを有効に使ってすべてZOOMでの開催となりました。
- ③協議会の新年会は自治研究センターとの共催シンポジウムと同時開催とし、ハイブリッドと呼ばれる会場実施とYouTube配信の2本立てで行いました。

八王子市からの受託事業について

八王子市から管理運営を受託している市民活動支援センターの指定管理者契約を、令和3年度から5年間、継続締結いたしました。4月より新入スタッフを4人加え、新たな気持ちで新規事業はもとより継続事業もバージョンアップで取り組んでいます。市民活動支援センター(支援センター)の指定管理者として、その管理運営を今まで以上に責任を持った体制で行うため、2年度は支援センター企画運営会議を多く開催し検討しました。

平成25年度から運営を八王子市から受託している「はちおうじ志民塾」は第12期の卒塾生12名を地域へと送り出しました。令和2年度はコロナ禍のため人数を少なくしての開塾となりました。

自主事業について

協議会の自主事業としての「女性・若者・シニア創業サポート事業」は、前半はコロナ禍のためセミナー開催などできませんでしたが、後半はZOOMを使い、多様なテーマで4回開催しました。場所的移動もないためリアル実施より多くの参加者がありました。東京都が地域に根差す創業を支援する制度であるこの事業は、地域で活動する市民や団体をサポートし、いきいきと活動してもらうことで地域が活性化し発展することに寄与したいとする当協議会の目的に合致するものです。特に人生100年時代を迎えてシニアの就業は地域を支えるうえでも重要なことです。今後もさらに力をいれていきたい事業の一つです。

いちょう祭りのF会場(わくわく広場)の運営は、コロナ禍でのいちょう祭りの開催内容変更により、令和2年度は、開催中止となりました。

広報としては「協議会だより」の偶数月年6回の発行とホームページを管理しています。

【課題と評価】

・令和2年度は、コロナ禍における三密防止、感染防止の観点から多くの事業に制限が加えられました。しかし現状でできることをできる範囲で行うこととし、多くの学びとチャレンジがあった年でもあります。オンラインでの各種イベントの開催など、新しいカタチでの活動を見つけることができましたし、この新しいカタチでの

活動の先駆的役割も果たせたと思います。

・Withコロナが暫く続きますが、市内の市民活動団体にどのようなサポートができるのかを常に考え、皆さんと一緒に地域の発展に寄与できる活動を続けてまいります。

【1】八王子市民活動協議会の運営組織

1. 理事会

- ①定例理事会:原則毎月第4火曜日午後5時から開催 協議会の運営についての重要事項について話し合いました。
- ②特別な審議事項や理事から開催要請があった場合に臨時理事会を開催します。
 - 2年度は3回の臨時理事会を開催しました。
- ③理事研修会:例年は8月、12月に開催
 - 2年度はコロナ禍において開催を見合わせました。

2. 三役会

メンバーは理事長、副理事長、事務局長、各事業部会部長、支援センター長で構成。 基本的に理事会の2週前に開催し、理事会に付託する議案について討議しました。

3. 企画運営会議の開催

原則として四半期毎に開催し、支援センターの適正な運営やサービス機能向上を図ることを目的としています。しかし、2年度前半は次期指定管理者申請に対応するためにこの会議の機能を拡大し、支援センター事業検討プロジェクトとして、構成メンバーである三役会理事に有志の理事を加えた形で、集中的に5回開催しました。

【2】支援センター事業

令和2年度はコロナで始まり、コロナで終わった一年でした。

東京都や市の対応に合わせ、センターでも時間、利用者数の制限、消毒等の感染防止対策を充分に行い運営にあたってきました。

また、講座、イベント等については、前半期には市に足並みを揃え、自粛ムードの中、開催ができない状態でしたが、後半期に入り、オンライン活動等の工夫を行い、これまでとは異なる形態で開催いたしました。

このように変則的な対応ではありましたが、ビジョン「私たち一人ひとりがつながって、夢をカタチにできる八 王子」の実現を目指すことに変わりはありません。ミッション「社会課題と市民・団体の力をつなぎます。市民が 社会貢献活動に参加し、NPO・市民活動団体がチカラを発揮できるよう、さまざまな事業を通じ支援します。」 の言葉に沿って業務にあたってきました。

1. 施設利用状況

交流室	活性化室	フリースペース	コピー 機	印刷機	面談 相談	来所他	電話 相談	電話他	メール 相談
544	518	0	75	32	73	328	44	2134	0
837	723	3083	366	180	128	420	57	1923	7

上段:令和2年度、下段:令和元年度

当年度初めより新型コロナ感染症予防を重視し、会議室利用やセンターに来所していただくことが全般的に減少することになりました。またフリースペースは通年閉鎖状態の対応となりました。これらは市役所と連絡を取り合い、下記のように感染予防対策の利用制限を行ないました。

また来場者の体温測定、消毒、および利用後の消毒を行い、ソーシャルディスタンスのため会議室利用時は各室ともに定員を9名ずつとしました。

経過・令和2年4月10日まで、会議室、フリースペース利用不可。コピー、印刷利用可。

- ・4月11日より臨時閉館。電話メールのみ対応。
- •6月9日より開館
- ・令和3年1月8日から2月7日緊急事態宣言発令(会議室は10時~19時まで利用)
- ・2月8日より3月7日まで緊急事態宣言延長 (同上)
- ・3 月 8 日より 21 日まで緊急事態宣言延長 (会議室は 10 時~20 時まで利用)
- •3月23日より通常通り

【課題と評価】

このような中でも来所する市民に対しては感染防止を重視しつつ丁寧な対応を心掛け、前年と比べて同様の満足度を得ました。

2. 調査研究活動

市民活動に関する多様な相談に対応すると共に、効果的なサービスを提供するためには社会環境の課題やNPO、市民活動の実態把握が大変重要であり、スタッフが外部イベントや講習会等へ参加しスタッフのレベルアップに努めました。

また、今年度も利用満足度調査を実施しました。センター来場者 180 人から回答を得ました。

【課題と評価】

利用満足度調査の結果は、「満足」、「やや満足」で 98.2%となり、引き続き高評価をいただきました。自由記述では「細やかに説明していただき感謝します」、「ていねいな提案がありがたい」等のメッセージをいただきました。

ただ、新型コロナ感染症対策を重視した職員の対応について、好意的な評価をいただく方もいれば、人数制限や時間制限に不満を持つ利用者もいました。こうした方にはていねいに説明することで納得いただくように努力しました。

また、研修では、今年は、オンラインでの研修にも参加し、時間とコストの削減にも配慮しました。

3. 総務部の活動

(1)相談対応及び専門相談

支援センター業務の大きな柱である相談業務は、相談者に寄り添い、受け止めるという基本的な考え方で対応しています。相談は1回で終わりにせず、いわばリピーターとして何度も来ていただき、さまざまな視点からの助言ができること提案することを心掛けて対応しました。

専門相談は NPO 経営支援アドバイザー派遣制度の活用やNPO法人との提携により、経理、労務、税務等の相談に対応しています。

【課題と評価】

本年度も、NPO 法人設立、NPO 法人運営、団体の会計等のバックオフィス関連のことや、助成金獲得や効果的な広報、他との連携等の相談がありましたが、これらのための情報不足という課題がありました。これに対応するため、専門書籍を購入し、NPO 支援組織としての知識を得ることとしました。

相談をきっかけにセンターの複数の機能を利用していただく利用団体もありました。

4. 広報部の活動

広報部は、社会を取り巻くさまざまな課題をタイムリーに捉え、そうした活動の中から市民や多様なセクターが、気付きや連携の糸口を得、まちづくりや地域参加のための市民力、地域力向上に貢献できることも大きなねらいの一つとして広報紙「SUPPORT802」を中心に情報発信を行っています。

(1) 広報紙「SUPPORT802」について

○ 活動内容 本年度制作した広報紙の概要は以下の通りです。

発行号数	発行日	特集記事(取材団体)	発行部数
第 96 号	令和2年5月1日	「大自然の中で学ぶ『支え合うチカラ』~八王子森林パ	5000 部
		トロール隊の取り組み~」(八王子森林パトロール隊)	
第 97 号	令和2年7月1日	「コロナ禍における八王子の市民活動」(支援センター	5000 部
		登録団体)	
第 98 号	令和2年9月1日	「語り継ぐ、八王子の昔ばなし~高尾山とんとんむかし	5000 部
		語り部の会~」(高尾山とんとんむかし語り部の会)	
第 99 号	令和2年11月1日	「野鳥の世界にようこそ!~八王子・日野カワセミ会の	5000 部
		取り組み~」 (八王子・日野カワセミ会)	
第 100 号	令和3年1月1日	「SUPPORT802 100 号!~今までの歩みと、これから~	5000 部
		(八王子市市民活動支援センター広報部)	
第101号	令和3年3月1日	「Do It Yourself~自由に作る!DIY には楽しみがいっ	5000 部
		ぱい~」(多摩 DIY 倶楽部)	

※主な配布先:センター登録団体、協議会会員、市内公共施設、市内各駅の広報スタンド、中間支援団体、市内NPO法人、配布希望町会・自治会、その他(八王子町会自治会連合会、八王子老人クラブ連合会、八王子センター元気、八王子レクリエーション協会、紙面掲載団体他)北原国際病院、西武信用金庫八王子支店・楢原支店・北野支店、多摩信用金庫京王八王子支店

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が、市民活動のさまざまな場面に及びました。第 97 号では、センター登録団体がコロナ禍においてどのような状況に置かれているか、またコロナ禍でどのような取り組みを行っているかについて、アンケートを通じて寄せられた「声」を社会に発信しました。

第98号では、高尾山とんとんむかし語り部の会の活動の様子を、紙面に掲載したQRコードから閲覧できる 朗読映像により伝える、メディアミックスの試みに挑戦しました。

今年度は、広報紙通算 100 号に到達し、100 号では広報部で座談会を行い、広報紙 100 号の特集記事を ふりかえりながら市民活動の動向について語りました。

原則、隔月開催の広報部会で広報紙の制作方針を決定し、取材を敢行。取材後に実施する編集会議において紙面構成の考え方を擦り合わせ、校正ののち入稿~発送という流れで制作しています。

【課題と評価】

今年度は原則として部長、支援センタースタッフ、サポートスタッフの3名体制で進めましたが、サポートスタッフはライターとしての専門性を有しており、取材・原稿執筆について一任する体制を採りました。他方、紙面のデザインや写真撮影、団体との連絡調整、3面・4面記事の作成といった作業は他2名で対応するなど役割分担が明確になったことにより、スピーディーな作業が可能となり、工程を前倒しし余裕をもったスケジュールで紙面制作が行えた号が複数回ありました。次年度も余裕をもったスケジューリングができるよう、調整していきたいと考えています。

(2) メールマガジン「SUPPORT802 だより」について

○活動内容

本年度の発行概要は次の通りです。

	号数	配信日	主な内容
	No. 135	令和2年4月19日	巻頭言「オンラインでのコミュニケーション」他
Ī	No. 136	令和2年5月16日	巻頭言「大学生と行った、新型コロナを考えるオ
			ンラインワークショップ」ほか

特別号	1		
No. 137	特別号	令和2年5月21日	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
合う~」、「メルマガ特別号より~現在までに寄せられた団体からの『声』~」ほか 参頭言「大切なことは『自発性』」、「メルマガ特別号より~現在までに寄せられた団体からの『声』~」ほか			取り組みについて~市民活動団体の「声」募集~
No. 138	No. 137	令和2年6月6日	巻頭言「コロナ禍での気づき~新しい日常と向き
No. 138			合う~」、「メルマガ特別号より~現在までに寄
No. 139令和2年8月1日巻頭言「危機は『分かれ目』」ほかNo. 140令和2年9月1日巻頭言「危機は『分かれ目』」ほかNo. 141令和2年9月1日巻頭言「『八王子 NPO パワーアップ講座 2020』がはじまります」、「八王子 NPO パワーアップ講座 2020」のご案内ほかNo. 141令和2年10月4日巻頭言「コロナ禍がきっかけの新しい体験」ほかNo. 142令和2年11月12日巻頭言「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン」、「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン開催のご案内ほかNo. 143令和2年12月4日巻頭言「1年前と、1年後~過去、現在、未来の連続性~」ほかNo. 144令和3年1月11日巻頭言「1年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほかNo. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか			せられた団体からの『声』~」ほか
No. 139 令和2年8月1日 巻頭言「危機は『分かれ目』」ほか	No. 138	令和2年7月7日	巻頭言「大切なことは『自発性』」、「メルマガ
No. 139令和2年8月1日巻頭言「危機は『分かれ目』」ほかNo. 140令和2年9月1日巻頭言「『八王子 NPO パワーアップ講座 2020』がはじまります」、「八王子 NPO パワーアップ講座 2020」のご案内ほかNo. 141令和2年10月4日巻頭言「コロナ禍がきっかけの新しい体験」ほか 8 一方 2年11月12日No. 142令和2年11月12日巻頭言「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン」、「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン開催のご案内ほかNo. 143令和2年12月4日巻頭言「1年前と、1年後~過去、現在、未来の連続性~」ほかNo. 144令和3年1月11日巻頭言「1年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほかNo. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか			特別号より~現在までに寄せられた団体からの
No. 140 令和 2 年 9 月 1 日 巻頭言「『八王子 NPO パワーアップ講座 2020』がはじまります」、「八王子 NPO パワーアップ講座 2020」のご案内ほか No. 141 令和 2 年 10 月 4 日 巻頭言「コロナ禍がきっかけの新しい体験」ほか No. 142 令和 2 年 11 月 12 日 巻頭言「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン」、「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン開催のご案内ほか No. 143 令和 2 年 12 月 4 日 巻頭言「1 年前と、1 年後~過去、現在、未来の連続性~」ほか No. 144 令和 3 年 1 月 11 日 巻頭言「1 年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほか No. 145 令和 3 年 2 月 13 日 巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民 活動を考える」ほか			『声』~」ほか
はじまります」、「八王子 NPO パワーアップ講座 2020」のご案内ほか	No. 139	令和2年8月1日	巻頭言「危機は『分かれ目』」ほか
No. 141令和2年10月4日巻頭言「コロナ禍がきっかけの新しい体験」ほかNo. 142令和2年11月12日巻頭言「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン」、「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン開催のご案内ほかNo. 143令和2年12月4日巻頭言「1年前と、1年後~過去、現在、未来の連続性~」ほかNo. 144令和3年1月11日巻頭言「1年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほかNo. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか	No. 140	令和2年9月1日	巻頭言「『八王子 NPO パワーアップ講座 2020』が
No. 141令和2年10月4日巻頭言「コロナ禍がきっかけの新しい体験」ほかNo. 142令和2年11月12日巻頭言「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン」、「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン開催のご案内ほかNo. 143令和2年12月4日巻頭言「1年前と、1年後~過去、現在、未来の連続性~」ほかNo. 144令和3年1月11日巻頭言「1年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほかNo. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか			はじまります」、「八王子 NPO パワーアップ講座
No. 142令和2年11月12日巻頭言「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン」、「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン開催のご案内ほかNo. 143令和2年12月4日巻頭言「1年前と、1年後~過去、現在、未来の連続性~」ほかNo. 144令和3年1月11日巻頭言「1年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほかNo. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか			2020」のご案内ほか
フイン」、「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オンライン開催のご案内ほかNo. 143令和 2 年 12 月 4 日 巻頭言「1 年前と、1 年後~過去、現在、未来の連続性~」ほかNo. 144令和 3 年 1 月 11 日 巻頭言「1 年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほかNo. 145令和 3 年 2 月 13 日 巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか	No. 141	令和2年10月4日	巻頭言「コロナ禍がきっかけの新しい体験」ほか
No. 143令和2年12月4日巻頭言「1年前と、1年後~過去、現在、未来の連続性~」ほかNo. 144令和3年1月11日巻頭言「1年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほかNo. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか	No. 142	令和2年11月12日	巻頭言 「はちおうじ NPO フェスティバル 2020 オン
No. 143令和2年12月4日巻頭言「1年前と、1年後~過去、現在、未来の連続性~」ほかNo. 144令和3年1月11日巻頭言「1年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」ほかNo. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか			ライン」、「はちおうじ NPO フェスティバル 2020
No. 144令和3年1月11日巻頭言「1 年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」 ほかNo. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民 活動を考える」ほか			オンライン開催のご案内ほか
No. 144令和3年1月11日巻頭言「1 年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」 ほかNo. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民 活動を考える」ほか	No. 143	令和2年12月4日	巻頭言「1年前と、1年後~過去、現在、未来の連
No. 145令和3年2月13日巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民活動を考える」ほか			続性~」ほか
No. 145 令和3年2月13日 巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民 活動を考える」ほか	No. 144	令和3年1月11日	巻頭言「1 年前のメルマガ巻頭言をふりかえる」
活動を考える」ほか			ほか
	No. 145	令和3年2月13日	巻頭言「季節は移りゆく」、寄稿「SDGs から市民
No. 146 令和3年3月12日 巻頭言「東日本大震災から10年」ほか			活動を考える」ほか
	No. 146	令和3年3月12日	巻頭言「東日本大震災から10年」ほか

上の表の「主な内容」に加え、センター主催事業の開催案内や、助成金情報などをメルマガ本文に盛り込んでいます。

【課題と評価】

今年度は、コロナ禍により市民活動団体の活動に大きな影響が出ました。そうした状況を踏まえ、メールマガジン特別号の形を採り、支援センター登録団体にアンケート調査を行い、コロナ禍で活動にどのような影響が出たのか、またその状況の中で工夫をしている点はあるかといった点について聴き取りを行いました。その結果が、「SUPPORT802」97号の特集記事として広く社会に発信されることとなり、メルマガと広報紙の連動企画として1つの事例をつくることができました。また、この調査により寄せられた団体からの「声」のいくつかをメルマガで紹介し、他の市民活動団体にとっての参考とするなど、中間支援組織の情報媒体としての役割を果たす上で有効に機能させることができたと考えています。

5. 啓発部の活動

今年度も団体活動のステップアップを狙ったパワーアップ講座や支援講座、市民の方に団体が取り組む 市民活動を知っていただくためのアクティブ市民塾など、多角的に市民活動を周知するためのプログラムを実施しました。

(1) アクティブ市民塾

○活動内容

月日	分野	団体名	タイトル	定員	申込 人数	参加 人数
令和 2 年 4 月 26 日 (日)	文化	パフォーマンス集 団ョロコンデ	体験型ミステリー「ミス・ シャーロック・ホームズの 憂鬱」	25 名	中止	中止
令和2年9月18日 (金)	福祉	キャラバン隊にじ のかけはし	ちょっと気になる子どもの 気持ちと関わり方	20名	20名	16名
令和2年11月29日 (日)	環境	八王子・日野カワ セミ会	はじめての野鳥観察〜身近 な自然を感じてみません か?〜	20名	68名	17名
令和2年12月12日 (土)	文化	わら細工の会 円座	手づくりしめ縄で迎える お正月	15名	27名	14名
令和3年2月21日 (日)	環境	八王子わんにゃん クラブ	ねこの保護活動を知る~人 と動物が共存するために~	20名	33名	30名(22 名+Z00M 8名)
令和3年3月4日 (木)	福 祉	フードバンク八王 子えがお	フードバンクと貧困問題に ついて考える	15名	延期	延期
合計6回 うち開催4回、コロナのため中止1回、コロナのため延期1回						

【課題と評価】

開催した4回のうちすべては定員を上回る申込をいただき、抽選を実施しました。ただし、申し込みをしたもののコロナの感染状況を心配してキャンセルした方もいました。コロナ感染防止策に配慮し実施しましたが、キャンセルに対応方法が今後の課題です。

今後も多くの申込をしていただけるよう団体の魅力的な側面に焦点を当てた講座を企画していきます。

(2) 実践講座

○活動内容

月日	タイトル	講師	定員	参加 人数
令和3年3月18日 (金)	八王子にあったらいいなをカタチにするヒント 地域に根差したビジネスで八王子を元気に	N P O 法人コミュニティビ ジネスサポートセンター 岡田浩一	25	18

【課題と評価】

開催日が緊急事態宣言発令中だったため、ZOOM開催としましたが、参加者は想定した人数を下回ってしまいました。やはりコロナの影響が多大でした。

(3)支援講座

○活動実績

開催日	テーマ	講師	定員	参加人数
令和3年2月11日 (木)	ZOOM を活用した一歩先行 く会議の進め方	地域ICT利活用研究会	10 団体	11団体18名

【課題と評価】

今年度はコロナ対応を模索した年であり、対応手段としてオンラインツールの ZOOM を活用する要望が多くありました。この課題を解決するために ZOOM のホストを行う講座を開催したところ、多くの方の参加申込みを受けました。ただし、参加者は初心者の方の参加希望もあり、次年度は初心者向けの講座の開催を検討したく考えています。

(4) 支援講座 2 (NPO パワーアップ講座)

○活動内容

	開催日	タイトル	講師	会場	参加 人数
1	10月9日(金) 14:00~16:00	会議を効果的にマネジメントする方法	呉 哲煥さん (NPO 法人 CR ファ クトリー代表理事)	クリエイトホー ル第 2 学習室	13名 8団体
2	10月30日(金) 14:00~16:00	メンバーが主体的に活動 できる仕組みの作り方	高橋葉子さん (NPO 法人 CR ファ クトリー)	クリエイトホー ル第 2 学習室	12名 8団体
3	11月13日(金) 14:00~16:00	NPO を支えるお金	浅井美絵さん ファンドレイザー	クリエイトホー ル第 2 学習室	12名 8団体
4	12月4日(金) 14:00~16:00	NPO 会計の基本	高野安季子さん 税理士	クリエイトホー ル第2学習室	10名 7団体
5	1月15日(金) 14:00~16:00	人が集まる講座とチラシ の作り方	坂田静香さん (NPO 法人男女共同 参画おおた理事長)	ZOOM 会議	17 名 8 団体
6	3月12日 (金) 14:00~16:00	情報発信の重要性と効果 的な発信方法	手塚 明美さん (認定 NPO 法人藤沢 市市民活動推進機構 理事長・事務局長)	ZOOM 会議	13名 8団体

【課題と評価】

今年度も団体に原則として連続的に受講をしていただきました。6つの講座は、「組織のあり方」、「お金」、「情報発信」に分かれていて、外部からそれぞれの専門家を講師に招きました。それぞれの講座では、団体同士のディスカッションの時間を設定し、講義のテーマに関する横の連携を促進し、参加団体にとっての活動の広がりも意図しました。

6. 情報部の活動

(1) 支援センターホームページの改善、維持・改造

○活動内容

①)Web サーバーおよびメールサーバーの安定稼働 大きなトラブルもなくセキュリティ監査も問題なく、安定稼働しています。

- ②サーバーのセキュリティ脆弱性の対応状況を随時把握
 - ・Peatix の情報漏洩事件の影響で、一時稼働を停止し、管理ページにアクセスできる全てのアカウントの ID とパスワードを変更しました。
 - ・市からのこれまでの J-LIS 情報が、支援センターWeb サイトでは該当しないことを確認しました。

③コンテンツの充実

- •NPO ハンドブックのページを新規に作成し公開しました。
- ・プロボノの紹介ページ、実績ページの更新を行ないました。更新作業を五大システムを通さずに更新できる 改造を検討しましたが、予算的に折り合わず見送りました。
- ・令和元年度利用者満足度調査結果を公開しました。
- ・申込フォームと問い合わせフォームの返信先を、フォームに記入されたメールアドレスに統一する改造を行ないました。

【課題と評価】

- ・支援センターの Web サイトはセキュリティレベルを確保しながら、安定稼働しています。
- ・コンテンツの更新も各部の要請に基づき随時実施しました。
- ・はちコミねっとが新元気 365 システムに移行すれば、はちコミねっとはスマホ対応となります。支援センターの Web サイトも同期してスマホ対応した方が、はちコミねっとから支援センターの Web サイト、またはその逆のリンクを貼った時にも、連携がスムーズになり、市民から操作性に関するクレームを未然に防ぐことができると思います。五大システムはスマホ対応は可能(別途改造費必要)と言っており、新元気 365 システムへの移行に併せて対応すべきであると思います。

(2)【はちコミねっと】の保守および活性化

- ○活動内容
- 1)団体への普及啓蒙および問い合わせ対応
- ①はちコミねっと団体向け講習会
 - ・登録団体向けに操作方法を理解していただく講習会を9回実施しました。
 - ・8月からは新型コロナ対応としてオンラインでも受講できるようにしました。
- ②はちコミねっと団体向け個別講習会
- ・新型コロナの影響で対面での個別講習会は中止し、電話での相談対応としました。
- ③市民企画事業補助金採択団体向け講習会
- ・市民企画事業補助金が中止になったので実施しませんでした。
- ④メルマガ会員の増加
 - ・はちコミねっとのチラシを広報と一緒に配布しました。
 - 3月時点で696(前年比+52)人が登録しています。
- ⑤アクセス状況等の把握
- ・3 月時点で 448(+9)団体が登録しています。団体インベントリを行った結果、8 団体から登録抹消の申請がありました。
- ・定期的にアクセス状況を測定しました。広報紙に大きく出た時はアクセス数の特異点を観察するなど、広報紙とアクセスの関係性が見て取れました。
- ⑥システムメンテナンスおよびベンダー対応
- ・新型コロナウイルス情報を「関連情報」「支援をしたい・支援を受けたい情報」に分けてトップページに常設する形で公開しました。
- ・元気 365 システム機能の改善要求を行ないました。改造に応じてもらえない場合は、制約事項として操作説明書を改版しました。
- ・団体の基本情報にある外部サイトのリンク切れや、登録メールアドレス、団体ホームページのURL等をチェ

ックし、36 団体に変更の依頼を行ないました。

- ・Gmail や Yahoo のメールアドレスの市民にはちコミねっとからのメールが届かない現象が 6 月に発生し、はちコミねっとのメールサーバーの設定変更で対応しました。
- (7)次期元気 365 システム対応
- ・新機能および移行スケジュールに関して10/27打ち合わせを実施し、パーソルワークスデザインから次年度以降の移行スケジュールが示されることになりました。

【課題と評価】

・4月7日の最初の緊急事態宣言以降、市民活動が大きく冷え込み(2020年5月の月報参照)、投稿数が大幅に低下しました。団体向けはちコミねっと操作講習会の開催も困難になったことから8月よりオンライン講習に切替えたことは、在宅でも参加できると好評をいただきました。しかし、細かい指示などは対面でのほうが行いやすく、オンラインにも慣れていない方が多いため、ZOOM講習などのオンライン対策も必要です。

(3)職場内 ICT 環境の整備。

- ○活動内容
- 1)情報セキュリティ全般の強化
 - ①毎月の J-LIS 対応

市から送付されるセキュリティ情報のうち、支援センターWeb サーバー、Mail サーバーおよびスタッフの PC に該当しないかチェックし、必要に応じバージョンアップと注意喚起を行ないました。特に仕事上の やり取りが多いと思われる、非常勤スタッフ、夜勤スタッフ、協議会メンバーへも注意喚起を行ないました。

- ②市からの指示事項対応 パソコン管理台帳の整備など パソコン台帳、備品リストなどを整備し市へ提出しました。その他、全 PC のスペック、整備状況、ライセン ス情報などの管理を行ないました。
- ③ウイルス対策ソフトの更新 更新時期がきたウイルス対策ソフトのライセンス更新を実施しました。
- ④業務データの保全

ファイルサーバーの定期的診断を実施しました。RAID構成に加えて定期バックアップを実施しています。 また、スタッフの PC を他のスタッフや夜勤者が使えないように、ログインパスワード(マイクロソフトアカウント)を情報部だけが知りうる形にし、各自のログインは各自設定した PIN で行うよう制度変更を行ないました

⑤個人情報・法人情報データの漏えい対策

DeviceLock の更新、サイボウズファイル管理アクセス権の見直しを実施しました。 サイボウズではレベル 2 以上の機密情報を扱わないようスタッフに注意喚起しました。

- ⑥管理指定者向け情報セキュリティガイドラインの遵守およびパソコンとサーバーのセキュリティ関連の設定 Emotet 対応やトロイの木馬型のフェイク広告などの対応を全スタッフに改めて周知しました。
- ⑦貸し出しパソコンの整備、さぽはちガーデン設置パソコンのセキュリティ管理 新型コロナウイルス対策で貸出 PC の貸出を禁止しました。セキュリティ関連のライセンスが切れたものに は更新作業を行ないました。
- ⑧Wifi 設備の安定稼働

来館者向けWifiとしてクレームもなく稼働しています。FreeSpot 導入で同時アクセス数が拡大した効果と、 ⑨にある回線工事による安定化が寄与しています。

⑨LAN の管理

協議会に光回線への変更を要望し、通信速度および安定性が飛躍的に向上しました。 活性化室の LAN ケーブル損傷が発覚し、再工事後正常化しました。

協議会が契約していたリコーの BB パック SELECT が契約時からメリットがなかったことが判明し、解約してもらいました。また、昨年度 VLAN の工事を内製化しているので、リコーによるネットワーク保守(スポッ

トを含め)が不要な状態となりました。

(10)ファイルサーバーのデータ保全と管理

NAS とそのバックアップは、正常に稼働しました。 NAS は RAID1による二重化を行い、週 1 回 HDD にバックアップを行っています。

- 2) パソコン性能改善によるスタッフの作業効率の向上
 - ①Office2010をインストールしている PC は予備機と貸出機であり、新型コロナウイルス対策で使用頻度がほぼなくなったため Office2019 へのアップグレードを見送りました。
 - ②PC-26 が画面ブラックアウトなどの症状が頻発し、原因が Windows 10 の 32 ビットバージョンに PC のハードスペックが非対応と思われ、PC-32 を新規購入(備品)し置き換えました。
 - ③PC-25のモニターが故障したため、外付けモニターをつけて、利用を継続しています。
 - ④PV-07、PC-13、PC-18の3台を整備しても実用に耐えないため廃棄処分としました。(7月)
- 3) サイボウズ Office の有効利用を図る
 - ①サイボウズ Office 管理者業務

新スタッフ向けの操作方法講習会、新理事向け操作法講習会を各 1 回実施しました。活用のための啓蒙活動、運用ノウハウの共有を行ないました。

- ②新スタッフおよび新理事のアカウント登録と各ドキュメントへのアクセス権の設定を行ないました。
- 4)オンライン業務への対応(新規)

新型コロナウイルス対応で、ZOOM による会議環境を整えました。特にセンター会議はハイブリッド型の会議形式(会議室とオンライン)になるため、ZOOM、マイクやミキサーなどを整備しました。

【課題と評価】

- ・セキュリティ関連では環境整備とスタッフ向け注意喚起を繰り返すことで、事故は発生していません。
- ・スタッフ向けには、パソコンの高速化と安定稼働、セキュリティの強化と啓蒙、サイボウズでの情報交換と情報共有が浸透し、業務効率の向上とセキュリティレベルの向上を達成しています。またパソコンの性能強化施策(メモリ増強、SSD 換装、Windows10 アップグレード)により新規購入を最低限に抑えたため、経費削減にもなっています。予備機、サロン PC、夜勤 PC を除き HDD 搭載機を排除したので、今後しばらくは性能問題や HDD クラッシュという事態は起きないと思われます。
- ・新型コロナウイルス対策でオンライン会議などの需要が高まるため、回線契約者である協議会に光回線 (これまでは ADSL 回線)への変更工事を依頼した結果、会議室で PC を複数台使っての ZOOM 講座が行えるようになりました。
- ・マイクロソフト Office が Office2013 が 2023 年に、Office2016 と Office2019 が 2025 年に Microsoft365 に完全移行するため、今後は Microsoft365 への移行を速やかに準備する必要があります。
- ・With コロナの時代では、支援センターがオンラインでできることを試行し、そのノウハウを市民活動団体と 共有していくことが今後の課題です。

<u>7. ファンド部の活動</u>

- 1.全体
- ■PR·広告

広く団体および市民の方々に、ゆめおりファンドをPRし活用していただくために支援センター広報誌「S UPPORT802」に、「もっと知りたい! ゆめおリファンド(物品支援と人事支援)」シリーズとして掲載しました。これに伴い、従来からの「ファンド部レポート」の発行を中止しました。

7月号「プロボノによる支援のながれ」

9月号「物品支援の取り組み」 11月号「団体の情報開示がなぜ必要?」

■団体・企業訪問

新型コロナ感染症防止対策として団体等への訪問を自粛し、昨年の半数、10団体、1企業でした。

2.物品の支援

■寄付・提供

2020年は新型コロナ感染症防止のため、企業を訪問しての寄付依頼を控えたこともあり、寄付は年平均10件に対し50%の5件、提供は年平均24件に対し41%の10件と落ち込みました。

寄付件数は半減したものの、数量でいえば年平均に近いものでした。これも、コーユーレンティア株式会 社殿のご協力ご支援によるものとして感謝するとともに特記しておきます。

寄付・提供物品の種類は次の通り

コーユーレンティア株式会社殿の斡旋で西松建設株式会社殿より、大型壁掛けテレビ、電子レンジ、音響装置セット、プロジェクターとスクリーン、冷蔵庫、液晶テレビ等を寄付いただきました。

同じくコーユーレンティア株式会社殿の斡旋で都内の企業殿(匿名希望)より、スタッキングチェア、OA チェア、ホワイトボード、プリンター、壁掛け時計、エレクターシェルフ、テープカッターなど文房具類、ファイル類などを多数ご寄付いただきました。

また、立川市の企業殿(匿名希望)から、ファイル類、クリヤーホルダーなどを多数ご寄付いただきました。 更に、八王子市の市民活動団体からダイニング用チェア、プリンター用インクをご寄付いただきました。

■提供

市民活動団体9団体に延べ10回、チェア、ファイル、電化製品、事務用品・文房具、チェア収納用台車、 テーブル、作業・安全機器、収納家具・用品、インテリア、PCアクセサリーなどをご提供いたしました。

■活用報告

新型コロナ感染症防止の影響で活動を自粛したため、提供物品を活用できないでいる団体がある一方で液晶テレビをモニターとしてオンライオン会議、勉強会などで活用しています。

3.人財支援(プロボノ)

プロボノによる人財支援は、定期的に行う中期プロボノと、支援ニーズがあるときに行う随時プロボノを、2つの柱として活動を開始し5年目となりました。プロボノ説明会、広報紙 SUPPORT802、ファンド部レポートなどによるPR・広報活動に加え、得られた成果物、支援先団体の体験報告、プロボノワーカーのプロジェクト報告・感想など実績からプロボノの有用性が認知され、市民活動団体からの支援依頼が増えてきました。

■中期プロボノ・随時プロボノ

区分	支援先団体	テーマ	プロボノ	前年度						2020)年度						次年度
EN	又级儿叫件) – (ワーカー	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
	めじろ台地区・ まちづくり協議会	ホームページ 活用	1名	W	E										H : 団体と h :ワーカ・		
中期	すずらん食堂	経理業務の 効率化	3名				Н	h K W		E	F				K:キック: W:ワーキ E:成果物	ング J納入	
プロボノ	N P O法人 みやま郷	フェースプッ ク 立上	2名					H h	W E						F :7 ₇ 0-	· 7 ୬ፓ	
	どんぐりの会 プロジェクト協議会	ホームページ 活用	1名									H	K W	E			

■プロボノ「オンライン会議個別体験相談会」

新型コロナ禍にあり、企業では ZOOM などを活用したオンライン会議が急速に普及している一方、市民活動団体はスキル、年齢などからオンライン会議の普及に手間取っています。

post コロナ時代に於いても、オンライン会議は団体活動に必要不可欠なツールと言えます。

そこで、オンライン会議や勉強会などに関心ある団体から個々に実情と課題を聞き、オンライン会議のスタート台に立てるよう基本操作と実践的方法を、プロボノ支援する「オンライン会議個別体験相談会」を企画、6月に第一回を開催しました。

団体課題を解決するツールの一つとのことから、当事者として真剣に取り組んでいただきました。大変好評でしたので、その後8月、9月、11月と追加開催、計14団体に参加いただきました。

■プロボノワーカー貢献証(2020/2/1)

八王子市内で自主的に公益活動している市民活動団体の理念に共感し、自らの知識やスキルを無償提供し、団体の課題解決にともに取り組んだプロボノワーカーに対して感謝の意を表する「プロボノワーカー貢献証カード」を5名に贈呈しました。

■プロボノ説明会(3/7)

プロボノ説明会を3月7日に会場を借りて開催しました。基調講演は認定NPO法人サービスグラント嵯峨代表理事による「仕事の経験・スキルを活かした社会貢献 プロボノの可能性」でした。

続いて、NPO法人みやま郷「経理業務の効率化」、すずらん食堂「フェイスブックページ開設」のプロボノ体験報告でした。効率的な会計処理ができるようになったこと。フェイスブックページ開設で情報や活動の周知ができるようになっただけでなく、ご覧になった方から寄付をいただいた等の報告がありました。

新企画として今年度大学コンソーシアム八王子で最優秀賞を受賞した創価大学経済学部西浦ゼミ生によるTeam Lights「コロナ禍における高齢者支援」の発表でした。ICT指導者(プロボノワーカー)と市民(大学生や市民活動団体など)がチームを作り、高齢者の加盟団体に「世代間ネット交流」などを提案するもので実証実験などが報告されました。オンライン会議・個別体験相談会の講師の「コミュニティビジネスとプロボノ」についての発表がありました。最後に、ファンド部から新しい取り組み「GRANT」を中心とした解説と団体の応募、プロボノワーカー登録のお願いがありました。2団体から支援相談とプロボノワーカー登録希望者と対応しました。

コロナ禍でしたが、定員 27 名でのリアルな説明会でした。結果は満席でプロボノへの関心の高さが窺えました。

■「GRANT」導入

人生100年時代におけるあるべきプロボノを見据え、認定NPO法人サービスグラントがオンライン支援をベースとした社会参加プラットフォーム「GRANT」を立上げました。

団体課題の「随時発信」、「個人単位」による短期集中型のプロジェクト、「ワーカーの随時募集」が特徴です。支援センターは、プロボノ開始当初より、定期的な「中期プロボノ」と団体が必要とするときに利用できる「随時プロボノ」を並行して行っています。また、「複数人からなるチーム」による活動が一般的な中にあって「個人単位」での支援も行っています。その意味から支援センターのプロボノと「GRANT」は高い親和性があります。

また、サービスグラントのブランド力から、地域を超えて高い社会貢献意識、様々なスキルの個人がプロボノワーカーとして応募してくる可能性が高いことから、プロボノワーカーのすそ野の拡大、それに伴う支援メ

ニューの増強が実現できると「GRANT」にコーディネーター登録しました。

4. 団体情報開示支援

■ゆめおりファンド参加団体

昨年より2団体増の58団体が参加しています。

■「ゆめおりファンド認証盾」贈呈

コロナ禍でもあり、支援センターの指定管理者、NPO法人八王子市民活動協議会から団体情報の開示に努めている団体として、今年度、新たに「ゆめおり認証団体登録」したボーイスカウト八王子第12団、なみき福祉会に「ゆめおりファンド認証盾」を指定管理者NPO法人理事長より贈呈しました。

その他対象団体は、蕗の会、チャイルドライフ、八王子いちょうの会、スペシャルオリンピックス日本・東京、 八王子市民活動協議会、筋無力症患者会、八王子共生社会推進会議、難病ネットワーク、フードバンク八 王子えがおの計11団体です。

■地域ファンド研究会活動

情報開示支援(登録条件の一元化検討)

2009年に、団体に物品、人財(プロボノ)等の運営資源の提供とCANPANのデータベースを利用した情報開示の場を提供することにより、運営基盤が確立できるよう「ゆめおりファンド事業」が発足しました。スタートから10数年が経ち、ITの発達・普及に伴い、団体単独でウェブサイト、フェイスブックなどの情報開示ツールを活用する時代となり、CANPANに登録し情報開示レベル★★★以上の取得を必要とする登録条件は、「はちコミねっと」の登録条件とも異なることから、市民活動団体にとってわかりにくいとの声も聞こえるようになりました。そこで、団体情報開示支援として支援センターと一元化した登録条件の見直しを開始しました。

人財支援(「GRANT」への参加)

更なる人財支援を図るために「GRANT」へのコーディネーター登録を検討し、2月の登録、支援を開始しました。

8. 地域・事業連携部の活動

(1) NPO ハンドブックの作成

・八王子市で活躍する市民活動団体の目的や活動内容をまとめた冊子「NPO ハンドブック」を3月に発刊しました。

当センターの広報紙「SUPPORT802」やホームページ、八王子市の「広報はちおうじ」で情報の提供を呼びかけるとともに、これまで八王子市民活動協議会で作成した「活き生きハンドブック」の団体の協力により284団体の情報を掲載することができました。

このハンドブックは市民の方々が市民活動団体でボランティア活動をしたいと思ったときに、この冊子を紐解き、希望する団体を探すための第一歩となります。

- ・市民活動団体にとっても、その活動を多くの市民に知ってもらい、交流することによって、より理解を 深め、会員として参加が期待できます。新しい会員の増加は、団体を活性化し、活動を強化するこ とができます。また、ほかの団体の活動を知り、お互いに助け合ったりすることで大きなネットワーク を築くこともできます。
- ・当市民活動支援センターでは、今後も市民の方々が活動団体に参加しやすい仕組みを作っていく とともに、NPO ハンドブックはこれらの活動において市民と活動団体とをつないでいきます。 同冊子は情報を提供してくれた団体や、会員、八王子市の図書館、市民センターなどに配本する とともに市民と市民団体を結ぶイベントで提供していきます。

【課題と評価】

活動団体からの情報提供にかかる広報を 11 月はじめから実施したため、極めて短い期間に情報を集めるとともに、印刷の版下として加工する作業が集中しました。しかも作業を実施する人数も極めて

少ないため、多くの負担がかかりました。幸い「活き生きハンドブック」で得た経験や、団体の協力もあって 284 の市民活動団体からの情報を集め、印刷原稿とすることができました。印刷業者も「活き生きハンドブック」を制作した会社としました。

今後このハンドブックの活用促進を進めるとともに、アンケートを実施し、2 年後に制作するハンドブックの資料とします。

(2) NPO フェスティバル 11 月 21 日 (土)

- ・コロナ禍対策として、11月21日(土)オンライン開催しました。
- ・放映は東京工科大学に、司会は宮城あかしさん、中野智行さんにお願いし、他分野との協働による新しい形が現出しました。
- ・「どーする?これからの市民活動」をテーマに、3人のパネルディスカッションを行い、ZOOMの双方 向機能を使って参加者と質疑応答しました。
- ・Youtube での視聴は、当日以降増え続け、1700を超えています。

【課題と評価】

司会者を起用し、動画で団体を紹介するオンラインという新しい形に手ごたえがありましたが、市民団体のお祭りという観点から次年度は物販を伴う会場開催をメインに、オンラインをどう絡めていくか模索することになりそうです。

(3)交流会

SDGs 的な交流会

- ・令和3年3月24日18時から20時まで完全オンラインで実施したSDGs的交流会を開催しました。 企画内容としては、市民および市民活動団体の身近な課題の中から、SDGs17ゴールに関係のある、 コロナ禍で急増したテイクアウトゴミ問題および八王子のプロスポーツによるまちづくり、の2つのテーマを各1時間で実施し、①小部屋を活用した対話促進を含むオンラインでの交流会を実施、②異なる 興味のある市民および市民活動団体の交流の促進、③意見集約および時短の為のグラフィックレコーディングの活用、の3本柱でオンラインの交流会を実施しました。
- ・事前準備として、1月27日にファシリテーター3名による打ち合わせ、2月2日グラフィックレコーダー3名との打ち合わせ、2月3日に地域連携部メンバーとの打ち合わせ、3月9日にイベント関係者7名による模擬演習および打ち合わせを実施し、計4回の事前打ち合わせを実施しました。
- ・当日、事前申込者および直前の参加者として、スタッフを含めて24名~27名を得て約2時間のオンラインイベントを実施しました。前半1時間のテイクアウトゴミ問題は、まず講師の久保田氏による15分程度のミニレクチャーの後、ブレイクアウトルームという小部屋に分かれて意見交換を実施しました。

各部屋にはファシリテーターを 1 名ずつ配置し、スムーズな対話を実現しました。身近なテーマであり、 環境問題の関係者の参加もあり、有益な対話が実施されました。

・後半1時間のプロスポーツによる八王子のまちづくりについて、まず講師の梅澤氏によるミニレクチャーの後、ブレイクアウトルームによる意見交換を実施し、プロスポーツの果たす効果や未来について普段では気づきにくいプロスポーツの可能性について対話を実施できました。

最後に、その時点で完成したグラフィックレコーディングを提示しながら、全体の流れを振り返って SDGs 的な交流会を終了しました。

【3】はちおうじ志民塾 (八王子市からの委託事業)

はちおうじ志民塾第12期

実施期間:令和2年9月12日~令和3年2月20日

受講生:12名

講座回数:全16回

- テーマ:①入塾式 ②オリエンテーション、地域への第1歩 ③八王子を知る ④地域を育む活動
 - ⑤地域の課題を解決する ⑥自分を知る(人生の棚おろし) ⑦八王子のまちを知る
 - ⑧活動の情報発信 ⑨SDGsと地域課題の解決 ⑩活動資金の確保 ⑪市民活動への支援
 - (2)セカンドライフを企画する~自らの海図づくり~ (3)卒塾発表 (4)卒塾式

地域で活躍、活動する担い手を育成する「はちおうじ志民塾」は、2月に第12期の塾生12名が卒塾し、 志民塾卒塾生は総勢257名になりました。今後の地域での活躍が益々期待されます。

第12 期の志民塾は、新型コロナの影響で、無事開催できるかどうかの懸念もありましたが、結果的には、 昨年同様、9 月開講、2 月の卒塾までの半年間で全16回の講座を、全て予定通り実施することができました。ただし、感染予防対策には十分に配慮しました。また、塾生募集を兼ねてのプレ志民塾が開催出来なかったことは、志民塾の周知の観点からも残念でした。

受講生はグループに分かれてグループワークをしたり、自主的に団体を訪問見学したり、卒塾発表に向けての話し合いを重ねたりと沢山の活動をこなし、その間に培われた仲間同士の繋がり、絆も志民塾受講生の宝物になります。

卒塾生たちは八王子の地域活動の担い手として大きな力になっています。OB のなかには卒塾後に協議会の会員や理事となり活動する方や支援センターのスタッフとして活躍する方も多くいます。

今後も協議会は卒塾生たちの活動を支援していきます。

【課題と評価】

学びの内容について

12 期を終了してこの 12 年間の卒塾生は 257 名となりました。第 8 期からは前期・後期に分かれていたカリキュラムを通期にしてスケジュールも一本化しました。その結果、学び易くなったという評価がある一方で、基礎的な内容が多くなり、専門性については物足りないとの声も聞かれます。

今後のカリキュラムの改定については受講生からのアンケート結果を参考にしながら、市とも協議を 続けていきます。

・新型コロナの影響

今期は、新型コロナの影響で、感染防止対策は不可欠であったものの、講座自体は、予定通りに開催することが出来たのは、極めて幸運なことでした。

今後、新コロナの影響は、更に広範に及ぶことも想定され、より柔軟な対応が必要とされることと思います。

・今後の卒塾生の動向調査とフォロー

志民塾開始から 12 年が経ちましたが、卒塾生達がどのような活動をしているかの把握が十分ではありません。

今後は卒塾生の活動動向調査や、活動の場の提供、紹介にも一層力を入れて、卒塾後のフォローアップ体制も整えていかなければなりません。

【4】協議会自主事業

1.総務部・事務局

(1)会員管理

令和2年度の正会員数は右の欄に示すように若干増加しています。

新規会員は、11 件ありましたが、コロナ禍で活動ができない、高齢のため活動ができないという団体が退会され、数字的には、ほぼ前年と同様に推移しています。 このコロナ禍で活動ができない団体正会員、個人正会員

会員数の推移		
	R1年度末	R2年度末
団体正会員	65	68
個人正会員	51	50
賛助会員	49	49
協力会員	35	31
合 計	200	198

協力会員がいくつかありました。

会費につきましては、前年度に引き続き会費回収の会員管理の強化を行いました。

会費未納会員は、当年度も多数発生しています。対応として年間2回文書で督促し、3月には、電話連絡をしています。検討しますという返事等で、結果、年度末において未納の会員は、26件あります。

(2)新年会員交流パーティー

令和3年1月24日(日)14:00~ 会場:学園都市センター11階ギャラリーホール

第1部 八王子市民活動協議会表彰式典

- ・10 年在籍会員への感謝状贈呈
- ・ゆめおりファンド認証盾授与

第2部 新春シンポジウム(第12回共助のまちづくりシンポジウム)

「持続可能な共生のまちづくり~2040年の八王子~」

基調講演とパネルディスカッション

コロナ禍のため、会場出席者は原則関係者のみとし、新年会の式典をオンラインで開催しました。 ビデオによる石森八王子市長のご挨拶のあと、10年在籍正会員への感謝状を贈呈(2団体と1個人)、 ゆめおりファンド認証盾の授与を行いました。その後、第2部「新春シンポジウム」を自治研究センターと 共催で開催しました。テーマは「持続可能な共生のまちづくり~2040年の八王子~」で、基調講演とパネルディスカッションを行い、YouTubeで公開しました。

【評価と課題】

コロナ禍において予定通りにいかない 1 年でしたが、多くのサポートスタッフの協力のおかげで乗り切ることができました。会員管理の面では、会員が高齢化にともない減少傾向にあります。若い世代への協議会の存在意義を発信し、退会者をなくすとともに新規会員を増員する工夫が必要です。

2. 広報部

(1)協議会だより

発行の概要は以下の通り。スケジュール管理と正確原稿を期すため、担当者を増やしました。

70 13 15 160	元月の成文は外上の通り。ハイマーの自己に正確が個で別りため、自己自己自己という。						
発行号数	発行日	主な内容					
第 90 号	令和2年 4月1日	NPO 八王子会議報告					
第 91 号	令和2年 6月1日	令和2年度 定期総会報告、新理事紹介					
第 92 号	令和2年 8月1日	オトパ実行委員会オンライン開催紹介・新名称投票呼びかけ					
第 93 号	令和2年10月1日	第 12 期志民塾入塾式 私の地元応援募金助成 8 団体紹介					
第 94 号	令和2年12月1日	NPO フェスティバル報告					
第 95 号	令和3年 2月1日	令和3年表彰式典と新春シンポジウム報告					

(2)ホームページ管理

・協議会のホームページをタイムリーに更新し、協議会の適切な情報が得られるホームページ管理を実行しました。

【課題と評価】

広報担当者を増やしたことで、発行日の順守と間違いのない広報紙が実現しました。ホームページの更 新も適時できたと思います。

3. 交流推進部

- (1)お父さんお帰りなさいパーティー(通称オトパ)
 - ・第24回は、コロナ禍での緊急事態宣言下を考慮して、オンライン開催としました。
 - ・参加団体は31、そのうち ZOOM参加は23、瞬間最大参加者は、66名で、会場開催よりは参加者は3分の1程度でした。

【課題と評価】

シニア団体にとって ZOOM 参加や動画作成が当初参加を躊躇する要素でしたが、動画を撮りに行く、動画を団体と一緒に作る等実行委員会の丁寧な対応も奏功し、31団体が動画作成し、ZOOM 参加とともに手ごたえを感じたようです。同時にリアル参加の良さも再確認し、次回は会場とオンラインのハイブリッド型を志向することになるでしょう。

- (2) 八王子いちょう祭り「わくわく広場」
 - ・いちょう祭り祭典委員会主催のいちょう祭りは、従来型の出店形式が中止になったため、わくわく広場も中止でした。
- (3)その他
 - ・NPO フェスティバルに実行委員で参加し、全体構成、パネルディスカッションのコーディネーター、人的ネットワークの構築などをサポートしました。

4. 地域ネット部

- (1)「活き生きハンドブック」は、ホームページを通じてデータを提供しました。
- (2)一般社団法人八王子自治研究センターと共催で、「第12回共助のまちづくりシンポジウム」を開催しました。

基調講演は、「持続可能な共生のまちづくりー2040年の八王子一」と題し、東京都立大学人文社会学部山下祐介教授から講演があり、これに基づきパネルディスカッションが行われました。

パネラー(敬称略)

木内 基容子(八王子副市長)

野牧 宏治(八王子ゆめおり市民会議 2011 代表)

楢島 杏奈(八王子市役所職員、次期基本構想・基本計画策定プロジェクトチームメンバー)

飛川 優(ワークショップ PALLET、高校 2 年)

コメンテーター

山下 祐介(東京都立大学人文社会学部教授)

コーディネーター

藤岡一昭(一般社団法人八王子自治研究センター理事長)

【課題と評価】

本年度、市民が手に取って閲覧できる冊子「NPO ハンドブック」が支援センター事業として制作されましたが、ホームページを検索して閲覧できる「活き生きハンドブック」との連携活用を検討していく必要があります。

シンポジウムは、コロナウイルスの影響で出席者も限定的になりましたが、八王子自治研究センターとの 共催で今後八王子市で検討が進む次期ビジョンの策定にかかるシンポジウムムを開催することができました。

5. 女性・若者・シニア創業サポート事業(女若シ創業サポート事業と略す)

女性・若者(39歳以下)・シニア(55歳以上)の創業者に対して、東京都は創業者に有利な条件での融資を実行する事業を推進しています。

協議会は「地域創業アドバイザー」としてかかわっています。

令和2年度実績としては、コロナ禍において接触を制限されたなかで、セミナー開催4回、事業評価面談 2件、ハンズオン(伴走支援)6件を行いました。

*セミナー開催4回の明細は次の通りです。

開催日時	講師名	講義内容	参加人数
令和2年12月13日	古川洋一氏	飲食業開業応援	18名
令和3年1月24日	古川英夫氏	持続可能な事業にする秘訣伝授	15名
令和3年2月14日	鮫島 淳氏	ビジネスモデルの構築	14名
令和3年2月28日	上田高弘氏	創業計画の具体的策定方法	15名

【課題と評価】

手数料収入は予算140万円に対し実績57万円と未達でしたが、コロナ禍の厳しい状況のもとでまずまずの成果をあげることができました。

6. 政策研究企画部

ここ数年の政策研究企画部は、支援センターと協議会の組織の理解と協働・連携化、PDCA サイクルによる事業改善の取り組みをしてきました。コロナ禍におけるオンライン化と協議会のマンパワー補強の手法として、支援センターファンド部事業であるプロボノ事業および協議会事業の資金提供に着目して、複数のプロジェクトにおいて、それらを実現・支援しました。

まずセンター事業の「はちおうじ NPO フェスティバル」において映像配信およびポスター制作を東京工科大学メディア学部との連携により実現、「SDGs 的オンライン交流会」では外部人材2名の参画による企画運営により、30 人弱の参加者という、予想を上回る好評を得て行うことができました。

次に協議会事業の、女性若者シニア創業支援事業(全4回)のオンライン化は情報ボランティアの会・八王子との協働、全てのポスター制作は同大同学部によるプロボノ支援により実現しました。さらに第24回オトパを完全オンライン化とし団体の動画配信、市民と市民活動団体の交流を支援しました。最終的にほぼすべての理事会・三役会・オトパ実行委員会に対してZOOM利用によるハイブリッド会議の運営を円滑に実施することができました。

【課題と評価】

政策研究企画部としての部会の開催がほとんどできませんでしたが、コロナ禍に対応したオンライン化は 十分に実現でき、大学との連携による学生プロボノを中心とした協議会のマンパワーの補強および支援セン ターとの円滑な連携・協働が多少なりと実現できました。より具体的な取り組みはまだ十分でなく、これらの積極推進が今後の課題です。